

■令和5年度第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議B分科会議事概要

日時：令和5年9月20日 14:00～16:00

場所：我孫子市役所分館中会議室

出席委員：林委員長、坂巻委員、河南委員

(欠席委員：高橋委員、加藤委員)

事務局(企画政策課)：高見澤次長、吉岡主幹、河合係長、鈴木主任、岡村主任

会議の公開/非公開：公開

傍聴人：0人

【議題】令和4年度施策評価について

◎基本目標4 あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり

○施策名称：7-3 スポーツの推進

〈発言要旨〉

委員：「新春マラソンの参加者数」について、学校単位での参加が少なくなったとのことだが、これも新型コロナの影響によるものか。

事務局：学校単位での申し込みの場合、教師の引率が必要となるが、昨今進めている教職員の働き方改革の影響もあり、申し込み数が減少してきていると確認している。

委員：学校単位の参加が減少していることを受け、家庭やクラブチームでの参加など、別の参加方法を推進する働きかけは行っているのか。

事務局：周知方法としては、広報やSNSなどを活用して広く参加を募っているが、地域のスポーツクラブなどの参加に特に注力した働きかけまで行っていないと思われるため、所管課へ意見として申し伝えたい。

〈施策の評価〉

「概ね良好」とした。

○施策名称：1-1 防災・減災対策の推進

〈発言要旨〉

委員：「自治会への避難行動要支援者名簿の提供数」について、令和4年度の実績として、年度途中で解除した団体があったようだが、どのような理由からか。

事務局：避難行動要支援者名簿の提供にあたっては、個人情報であることから、その取扱いについて十分注意するよう理解を得た上で各自治会に提供しているところ

だが、自治会長が交代したタイミングで、個人情報を扱う責任を負いきれないとの判断により、返還する自治会があったものと考えられる。

委員：名簿の提供を受けている自治会数が令和4年度実績で18自治会とのことだが、母数はどのくらいなのか。

事務局：市内の自治会数は、正確な数字ではないが190団体程度と認識しており、それが母数であると思われる。自主防災組織の組織率と比較すると、比率としては決して高いとは言えない状況であり、所管課への聞き取りによると、やはり個人情報の管理に伴う責任がネックになっているものと思われる。

委員：気候変動などにより、自助、共助の必要性が高まる中、自力で逃げるのが困難な人へもサポートをより充実してもらいたいという気持ちも込め、「良好とはいえない」と評価したい。

〈施策の評価〉

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：1-2 浸水対策の推進

〈発言要旨〉

事務局：この施策は、指標としては「浸水対策達成率」の一つだけで、定量的に評価する都合上、市が計画している浸水対策事業全体の進捗率を数値化して表現しているが、正確に数値で測ることはなかなか難しいのが実情。令和4年度は未達成となっているが、各事業の進捗自体は大きな遅延はなく計画通り進められている状況である。

委員：資料からも順調に浸水対策事業が実施されている状況が読み取れ、事務局からの補足説明も考慮すると、指標の数値が未達成であっても、施策としては順調に推移していると評価できるため、「良好」としたい。

〈施策の評価〉

「良好」とした。

○施策名称：1-3 防犯対策の推進

〈発言要旨〉

委員：「刑法犯認知件数」は507件となっており、これが多いのか少ないのか、相場が

つかみづらいところではあるが、資料を見ると県内では 17 番目となっている。
指標は 2 つとも達成していることから、特に問題ないと考えられる。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称: 1-4 消防力の強化

<発言要旨>

委員: 「災害出動覚知から現場まで 8.5 分以内に到着できた割合」について、ここでいう災害出動とは、台風などの災害対応だけでなく、救急搬送なども含まれるのか。

事務局: 救急搬送も含め、消防車両がサイレンを鳴らして出動したものはすべてカウントされている。

委員: 管轄外出動が増えている状況としては、新型コロナの影響により、市外への出動が増えていることが要因か。

事務局: 我孫子市では、各消防署で市内を 4 つの管轄地域に分割し対応している。新型コロナの影響により市外への出動が増えているという状況もあるが、どちらかという、市内で各消防署の管轄地域を越えて対応せざるを得ないケースが増加していることが一番の要因であると考えられる。

委員: 所管課のコメントに、「出動体制を見直す」とあるが、どのように見直すのか。

事務局: まず 1 点は、救急隊の増隊が挙げられる。高齢化が進んでいることもあって、救急の年間出動件数は急増しており、以前は 4,000 件を超えることはない想定していたが、昨今では 7,000 件を超えるまでになっている。現在整備を進めている(仮称)湖北消防署の開設に合わせて、1 隊増隊することを予定している。また、もう 1 点としては、同じく(仮称)湖北消防署の開設に合わせ、市内の人口分布などを再度確認し、各署の管轄エリアを見直すことも想定される。

委員: 施策全体の指標としてはすべて未達成だが、外的要因によるものも多く、実施体制上大きな問題点があるとは見受けられない印象である。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称:1-5 交通安全の推進

〈発言要旨〉

委員：これまでの有識者会議では、交通安全施策についての評価はなく、今回からが初めてとなる。交通安全施策というと、どちらかというと警察が実施している印象だが、市としての取組としてはどのようなものがあるのか。

事務局：直接的な交通安全対策はやはり警察が実施するものが多く、市は注意喚起の看板設置や、警察との共同開催による交通安全教室など、どちらかというとバックアップ的な形で警察と連携しながら行うものがメインとなる。市の独自の取組としては、高齢者の交通事故を減らすため、運転免許返納者へ数年間市内の公共交通機関の割引を行う取組などを実施しているところ。

〈施策の評価〉

「良好」とした。

○施策名称:5-3 公共交通の利便性向上

〈発言要旨〉

事務局：「JR成田線の1日の往復本数」について、目標値に誤りがあった。令和9年度までに1往復増やすことが趣旨であるため、全年度の目標値を「42」と訂正する。

委員：「JR成田線の1日の往復本数」について、今の利用者数の水準で往復便数を増やした場合、収支はどうなるのかといった点は把握しているのか。

事務局：増便した場合の詳細な収支の見込みまでは把握できていない。ただし、赤字路線であることはJRも公表しており、市としても認識しているところ。毎年、沿線自治体とともにJRへ増発を要請しているが、JRからは今の乗客数では難しいとの返事をいただいている。県内でも、利用が少なく減便になっている路線もある状況を鑑みれば、少なくとも現状を維持することが重要であり、沿線自治体で連携して駅周辺でイベントを実施するなど、利用者を増やす取組を実施している。

委員：減便している他路線の状況を鑑みれば、現状維持でも頑張っている方だという印象を受ける。ホームドアの工事が順調なことや、新型コロナの影響で減少したあびバスの利用者も戻りつつある状況なども考慮し、施策全体として低い評価にはならないのではないか。

委員：高齢化社会の中で、市民の足となる鉄道やバスなどの公共交通を維持していくことは重要な課題であることから、新しい取組も含め引き続き頑張っていってほしいという意味も込め、「概ね良好」と評価したい。

＜施策の評価＞

「概ね良好」とした。

○施策名称:5-4 安全で快適な道路の整備

＜発言要旨＞

事務局:「駅前広場等における道路アダプトプログラムの実施箇所数」について補足で、この指標では駅前広場の実施箇所数のみをカウントしているが、制度自体は駅前に限らず、市内の道路全体を対象としており、21団体が活動している状況。

委員:目標は未達成となっているが、制度としては活動場所が限られているわけではなく、今後も参加団体が増えていく余地があるということが確認できた。

＜施策の評価＞

「良好」とした。

○施策名称:6-3 生活環境の保全

＜発言要旨＞

委員:「地下水水質環境調査における環境基準達成率」では、基準値を超えた井戸があり、未達成となっているが、むしろ生活環境に問題が生じないよう環境基準のモニタリングをしていくというところにこの指標の重要な意味があると考えられるため、引き続き適切に実施していただきたい。

＜施策の評価＞

「概ね良好」とした。

○施策名称:効率的・効果的な行財政運営の推進

＜発言要旨＞

委員:「一人当たりの時間外勤務数」について、削減に向けて取り組んでいるとのことだが、我孫子市では常勤職員と会計年度職員の割合はどのような比率になっているのか。

事務局：大体の数字であるが、常勤職員が 860 人程度おり、会計年度職員は短期間だけ雇用するケースもあるが、年間を通して数えれば 1,000 人以上かと思われる。

委員：常勤職員が減ることで、負担が増え、結果的に時間外勤務が増えるということは想定されないか。

事務局：これまでは、定員管理計画において常勤職員を減員していく方向で取組を進めてきたところであるが、昨今、休職者が増加していることや、業務が多様化している状況を鑑み、最新の定員管理計画においては、増員の方針に切り替えたところ。職員の新陳代謝により、人件費の抑制を図りつつ、適正な組織体制の構築を進めていきたい。

〈施策の評価〉

「良好」とした。

○施策名称：7-1 生涯学習の推進

〈発言要旨〉

委員：図書館については、所管課のコメントから、新型コロナの影響を受けつつも、中高生向けにターゲットを絞った利用促進など、今後の施策展開によりさらに施設の利用率を伸ばしていくという意図が読み取れるが、公民館については、単に新型コロナが落ち着くことによる自然回復の見通しについての記述しかなく、方策についての考えは見えてこない。何か新しい取組を行う考えはないのか。

事務局：公民館は建設から一定程度年数が経過しており、必要な老朽化対策を実施していくことは当然だが、避難所に指定されている施設でもあるため、Wi-Fi 環境の整備を行い、災害時への対応を強化するとともに、日ごろの利用者の利便性の向上を図っていく考え。また、Wi-Fi 環境が整うことで、どういう講座が望まれているかなど、利用者のニーズ調査も実施しやすくなり、今後の施策展開の検討に活用できるものと想定している。

委員：鳥の博物館については、新しいモニュメントを設置して、今後の利用動向に変化が見られそうか。

事務局：モニュメントは、市民から寄贈され市が設置したもので、鳥の博物館の新しいシンボルとして好評を得ているところ。また、施設の開設から相応の年数が経過し、展示内容の陳腐化により来館者数の停滞につながっているとの見方もあるこ

とから、展示内容のリニューアルに向け検討を進めているところである。

委員：施策全体の印象として、指標が未達成なのは新型コロナの影響もあり、致し方ない面もあると思われるが、今後状況が落ち着く中では、今一度生涯学習施設としての役割や利用促進の工夫について熟考していただき、さらなる拡充に期待したい。

〈施策の評価〉

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：市民とともにつくる協働によるまちづくりの推進

〈発言要旨〉

委員：「市民活動ステーションの利用件数」について、市民活動ステーションの運営は指定管理者か。また、利用を促進していくための新たな考えなどはあるか。

事務局：運営は指定管理者が行っている。何か新たな取組については特に確認できていないが、指定管理の運営は指定管理者選考委員会において毎年度実績を評価しており、その中で新型コロナ後の利用促進に向けた視点も入れつつ議論がなされているものと思われる。また、市民活動ステーションは地域コミュニティ活動の拠点となる場所であり、活動が活発になれば比例して利用率も高まっていくものと考えられるので、活動の活性化の度合いを測る指標としても注視していく必要があると考えている。

委員：「自治会・町内会への加入率」について、世帯数は増えているのに加入率が下がっているのはなぜか。

事務局：世帯数自体は増えているが、単身世帯もいることや、家族世帯であっても自治会活動を嫌って加入しないという選択をする方もいることから、比率としては下がってきてしまっているのではないかと推察される。

委員：資料を見ると、加入率は全国平均の約7割と比べても我孫子市は若干下回る状況が確認できる。

事務局：おそらく全国平均の数字は、小規模の自治体も含まれており、1万人未満の自治体では8割程度を維持しているようなので、全体の平均を底上げしているものと思われる。

委員：「近隣センターの稼働率」について、地区別にかなり格差があるようだが、稼働率の向上も含めて施設の今後のあり方について議論されているようなことはあるか。

事務局：施設の配置としては、現在の 11 館を維持する方向で、新たに増やしたり減らしたりといった考えはない。ただし、地域間で稼働率に格差があるのは認識しているところで、稼働率が高い施設は予約が取りづらく抽選となっていると聞いている。施設の配置自体は変える予定はないが、今後、運用の面で、改善できる工夫がないか所管課に申し伝えたい。

委員：施策全体として、新型コロナ禍でもサービス提供を続けてきた頑張りには評価できるが、今後の人口減少社会の地域のコミュニティを応援していくために更なる頑張りをしてほしいという意味も込め「良好とはいえない」と評価したい。

＜施策の評価＞

「良好とはいえない」とした。

【その他事務局連絡事項】

・本日の会議でB分科会による施策評価はすべて完了した。後日、施策評価結果をとりまとめ共有させていただく。

以上